

ボランティアによる校内LANの整備ネットデイ

利用促進部会主査 玉井基宏
(吉田町立郷野小学校)

【教育の情報化とネットデイ】

文部科学省は2005年までにすべての教室からインターネットが活用できるネットワーク環境をすべての学校に整備する計画を進めており、全国各地の学校において校内LANの整備が始まっています。校内LAN整備は、工業者に発注して行うのが一般的ですが、地域のボランティアの協力によって工事を行う方法もあります。児童生徒一人一人が情報ネットワークにアクセスできる環境を提供することを目的として、ボランティアが教室のインターネット接続を支援するこのイベントはネットデイと呼ばれており、1990年代にアメリカ合衆国のシリコンバレーで始まりました。ネットデイによって整備された校内LANは、稼働率が高いと言われています。また、学校の担当者が転勤した後も、ネットワーク整備を経験し校内LANについて熟知した人材が地域に残るといったメリットもあり、これは地域の情報化推進の一助になります。

【郷野小学校でのネットデイ】

2003年3月2日(日)に、吉田町立郷野小学校で当地域における初めての本格的なネットデイが実施されました。当日は、西日本各地のネットデイを支援している「ネットワークサポートセンター inかんさい」(<http://www.nes-k.gr.jp/>)が技術支援を行い、本協議会も共催しました。当日は、郷野小学校PTAを中心に約30名の参加



吉田町立
郷野小学校
LAN工事
(2003年3月)

があり、LAN工事、ネットワークケーブル作成講習会が和気あいあいと進められました。郷野小学校は、100Mbpsの高速回線で地域イントラネットを経由してインターネットに接続されていますが、コンピュータールームでしかインターネットが活用できませんでした。各教室にインターネット利用環境が整備されたことでインターネットやコンピュータといった情報手段を活用した教育活動がさらに充実することが期待されています。



CSI役員・運営委員

理事長	吉田 典可
副理事長	相原 玲二、染岡 慎一
理事	片山 博昭、小関 裕二、佐々木 正人、椿 康和、西村 浩二、前田 香織、前田 真理
監事	石永 正隆、大場 充
運営委員	相原 玲二(委員長)、前田 香織(副委員長)、今井 一雅、上野 優香、河野 英太郎、佐々木 正人、田島 浩一、玉井 基宏、西村 浩二、原田 隆、前田 真理



(2003年5月22日現在)

自分達でつくる「みあこネット」

ーCSIインターネット利用研究会2003に参加してー

NPO法人 日本サスティナブル・コミュニティ・センター代表 高木 治 夫



3月22日(土)、広島市まちづくり市民交流プラザで開催された「CSIインターネット利用研究会2003」(<http://www.csi.ad.jp/activity/CSI2003/>)に参加させていただきましたが、午後からの発表には、大変感激しました。

高知高専の今井先生に始まり小・中・高の先生方の発表に、ワクワクとさせていただきます。小・中・高の先生がこんなにも楽しい先生とは!

なかでも、3地点での遠隔合唱に取り組まれた森保先生の発表を聞いて、「もう一度、入れるなら森保先生のクラスに入学したいなあと、そうすれば音楽にもっとめざめ、もっともっと歌が上手になっていたのに…」とおもわず感激してしまいました。

森保先生から発表後に聞きましたが、自身でもイーサネットのケーブル配線や接続もされたとか。必要なもの欲しいものは「自分達でつくる」という勇気ある先生を多くの方々が支え、インターネット技術でも大変むづかしい音声遅延と同期化問題を克服され、見事に遠隔合唱を実現されてこられた活動などなど、長年に渡り持続的に取り組まれてこられたCSIに大変感激しました。

インターネットでエモーション。インターネットが感動を与える文化にどんどん発展・進化しているということを強く感じさせられた1日でした。最近では、ブロードバンドの時代のコンテンツって何?とよく質問されたりしますが、実はコンテンツを「自分達でつくる」、その楽しさと感動なのかもしれないと気づかされました。

どんどん「自分達でつくる」。「みあこネット」も、地域をいかに魅力的な舞台にするか、自分達でもどんどん活用したい舞台を、どんどん自分達でつくりたいと、多くの方々の参加を得てすすめてきた事業です。

2001年11月30日に開催された第3回京都研究会の午前5時、「もう議論は止めて自分達の手で京都の街中を無線インターネットで結ぼう!」という結論になりました。そこで、京都大学、(財)京都高度技術研究所、NPO法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター(SCCJ)を中心にして、公衆無線インターネット網を京都の街中に張り巡らそうと2002年1月「みあこネット」プロジェクトを立ち上げてすすめてきました。駅・旅館・ホテル・カフェ・お寺・大学・商店街・自宅・オフィスなどに無線基地局を設置してきました。無線基地局の数は、2003年5月で、250局に近づいて来ています。

今までは、「自分だけ」の、「企業だけ」のインターネットでした。しかし、今、ADSLや光ケーブルによるブロードバンドの時代へとインターネットも発展し、通信帯域が余る時代になってきました。この有り余る通信能力のほんの少しを電波で来客に提供しよう。自宅に会社に学校などに客間があるように、来客のためのしつらえとして食器や花を用意するように、来客のためのしつらえの一つとしてインターネットを用意してみませんか!

人が訪れ、集まりコラボレーションが始まる。日本文化として発展してきた生け花やお茶は、まさしく人と人との交流をすばらしい舞台でおこなうための装置です。身の回りで考えてみても、歴史的にみても客間という装置が重要な役割を果たしてきています。

21世紀、来客へのしつらえとして、新たにインターネットが加わります。お花やお茶と同じように、インターネットが日常の中にあたりまえのように融け込む。障害者も新たな道具をはじめて手にすることができ、ライフスタイルが大きく変わります。与えられるのを待つのではなく、地域を、社会を「自分達でつくる」、楽しむ、感動するという時代へ大きく変わろうとしています。

平成14年度Eスクエア・アドバンス成果発表会報告

理事・副運営委員長 前田 香 織
(広島市立大学 情報処理センター)



当協議会の「高品質映像伝送による次世代型遠隔交流の実証実験」プロジェクトは財団法人コンピュータ教育開発センターの平成14年度「Eスクエア・アドバンス」(IT教育改善モデル・普及事業)に採択され、「マメdeがんすプロジェクト2」として、積極的に遠隔授業や遠隔交流の実践実験に取り組みました。2003年3月7～8日に、本事業の成果発表会が「教育・学習へのIT活用シンポジウム」として、東京ファッションタウンビル(東京都江東区)で開催されました(http://www.cec.or.jp/e2a/e2a/seika_kaisai01.html)。当協議会からも、実践実験の教育の利活用事例を広島市立南観音小学校森保尚美教諭(現、広島大学附属東雲小学校)が代表して発表し、プロジェクトの全体概要と成果のまとめを筆者が行いました。また、「未来の教室モデル授業」のセッションでは、広島市立大学より東京の会場へ100MbpsのFTTH

(Fiber To The Home)を用いて模擬授業を実施しました。広島市立大学国際学部岩井千秋教授の手話と英語を交えた、会場の模擬生徒とのテンポのある双方向の授業進行は会場参加者を魅了するとともに、映像品質について高い評価を得ることができ、当協議会のプロジェクトの成果を十分にアピールできたと感じています。本シンポジウムの様子は <http://www.csi.ad.jp/activity/2MAMEdeGansu/> で紹介しています。

会員紹介シリーズ No.6

呉 大 学 (<http://www.kure-u.ac.jp/>)

本学は、3市16町の支援により公私協力方式で1995年に開学し、本年度で9年目を迎えます。呉市郷原に社会情報学部、呉市阿賀には看護学部・短期大学部があり、2003年度には坂キャンパスの設置、福祉情報学科の開設など発展を続けています。

地理的にはなれたキャンパスを持った大学で質の高い教育・研究環境を提供するには、キャンパス間の連携が重要となります。本学では、開学当初よりコンピュータネットワークを有効に利用することでこれを実現してきました。2002年度には郷原・阿賀間をATM6Mbpsで接続し、LAN環境の増強を実施しました。これには、広島県のメイプルネットを利用しています。キャンパス内では基幹部分を1Gbps、支線部分を100Mbpsのネットワークを構築し、動画などの大容量データの頻繁な転送にも十分耐えうる構成となっています。

講義・演習等で利用される情報処理室は3部屋あり、各部屋約50台のコンピュータが設置されています。事務室・研究室にもコンピュータを設置し、これらのコンピュータをネットワークで結ぶことで学生・教員・事務職員間の情報共有を容易にしています。

以上のような環境を利用して、講演会や講義風景のリアル配信やオンデマンド型の配信も一部で開始し、マルチメディアを積極的に取り入れる工夫も行っています。今後は、高品質・広帯域のネットワーク、高性能な情報機器が更に安価で提供されることが確実となっている中で、これらの有効な利用方法を提案できるよう努力して参ります。(文責:迫田健治)



【事務局便り】

info@csi.ad.jpの運用開始について

CSI事務局長 染 岡 慎 一（安田女子大学）

従来、CSIからのご案内等を行うメーリングリストとして、announce@csi.ad.jp を運用してまいりましたが、平成15年度より、info@csi.ad.jp (info ML)を新たに設け、CSIが主催、共催、後援する行事案内の他、CSI会員様の主催行事等で、他の会員様に有用な情報を案内できるようにいたしました。また info@csi.ad.jp はCSIの会員様以外でこのような情報に興味のある方(団体)を登録できるようにいたしました。

CSI会員様の主催する行事等で、他のCSI会員様に有用な情報がございましたら、sec@csi.ad.jp までお寄せ下さい。また、info@csi.ad.jp はCSI会員様以外でも電子メールアドレスの登録が可能です。登録を希望される方は、電子メールアドレスを sec@csi.ad.jp までお知らせ下さい。

CSIのメーリングリスト

info@csi.ad.jp … 上記の説明を参照ください／会員以外の方も参加可能です

announce@csi.ad.jp … CSIの活動に関するご案内／会員向け

tech-contact@csi.ad.jp … ネットワークの運用管理に関する情報のご提供／基本接続サービスを利用する会員向け

office-contact@csi.ad.jp … 会費等の事務処理に関するご案内／会員向け

CSI会員紹介（2003年5月12日現在）

団体正会員（23組織）☆印は接続会員 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#dantai>

学校法人広島国際学院、学校法人高知工科大学、☆学校法人福山大学、株式会社ネットスプリング、
☆株式会社広島市産業情報サービス、株式会社ラディックス、☆呉大学、☆県立広島女子大学、
☆高知工業高等専門学校、☆高知女子大学、☆財団法人放射線影響研究所、☆日本赤十字広島看護大学、
ネットワン・システムズ株式会社、比治山大学、☆広島大学、☆広島県立大学、☆広島県立保健福祉大学、
☆広島市、☆広島市立大学、広島商船高等専門学校（マルチメディア時代における教育研究会）、
☆福山平成大学、安田女子大学、☆弓削商船高等専門学校

賛助会員（11組織） <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#sanjo>

伊藤忠テクノサイエンス株式会社、株式会社日立製作所中国支社、株式会社ミウラ、ジャストシステム株式会社、
総務省中国総合通信局、中国通信ネットワーク株式会社、
中国電力株式会社、西日本電信電話株式会社広島支店、日商エレクトロニクス株式会社中国支店
日本電子計算株式会社、日立中国ソフトウェア株式会社

個人正会員（40名） <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#kojin>

編集後記

街を歩きながらインターネットに接続…ちょっと前までは夢のような話ですが、その裏で仕組みを支える人達の存在があるからこそ、夢が現実となっているように思います。CSI各部会では今後とも会員皆様のご参加をお待ちしております。(YU)

2003年5月22日 企画広報部会・広報誌編集担当 今井一雅、河野英太郎、上野優香

